

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日本新研究開発拠点新設工	階数	地上2F
建設地	大阪府堺市堺区匠町1番3他8筆(1)	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	45人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年3月31日
敷地面積	6,931㎡	作成者	北村 知里
建築面積	4,900㎡	確認日	2021年4月2日
延床面積	9,610㎡	確認者	槻尾 輝雅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算 ☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.7

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	大阪府堺市に建設される工場の計画である。階高や空間の形状、荷重にゆとりのある計画としている。	その他 特になし
Q1 室内環境	評価対象外	Q2 サービス性能 更新間隔の長いダクトや配管材料を採用し、設備耐震クラスもAクラスを確保し、建物の耐用性向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)		オープンな外構計画とし、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	環境負荷低減に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用や材料使用量削減により、資源の保護に配慮している。
		LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	(仮称)日本新研究開発拠点新設工事(台上棟-2)	BEE	BEEランク
	建設地	大阪府堺市堺区匠町1番3他8筆(1番4、1番5、1番6、1番11、3番3、4番、5番、6番3)	0.8	B-
	主用途/延床面積	工場 / 9,610.41 m ²		

2. 重点項目への取組み		
重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	3	● ● ● ● ●
みどり・ヒートアイランド対策	2	● ● ● ● ●
エネルギー削減	2	● ● ● ● ●
建物の断熱性	—	● ● ● ● ●
安全快適な暮らし	2	● ● ● ● ●
自然エネルギー利用	—	

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	-	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
CO ₂ 削減	評価項目	スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値	3.0	3
みどり・ヒートアイランド対策	生物環境の保全と創出	1.0	2
	敷地内温熱環境の向上	2.0	
	温熱環境悪化の改善	3.0	
エネルギー削減	設備システムの高効率化	2.0	2
建物の断熱性	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	—
安全快適な暮らし	バリアフリー計画	0.0	2
	耐震・免震	3.0	
	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	
	交通負荷抑制	1.0	
自然エネルギー利用	自然エネルギーの利用	3.0	—

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特になし。	
特に配慮した事項	
特になし。	